

Making Sense of the World Markets
and Investment Options – 2008

Part 1

2008 年の世界市場と投資オプションを理解する

期間: 2008 年 6 月 7 日 ~ 6 月 15 日

講師: トーマス・F・オショネシー (公認会計士)

< はじめに >

現在、世界の経済構造は、激しい変化に直面しています。

そのため、一般的な投資家にとって、現在と退職後の生活水準、そして子供たちの将来の安全と保障、そのための適切な投資は何か、その選択が困難になっています。

この状況を鑑み、現在の状況、将来の予想、

そして世界中の一般的な人々が、投資した資金が可能な限り高いレベルでの安全性と投資効率を得るためにどんなことをしているか、といった情報をご説明します。

私たちのほとんどが、自分と家族のための食費、衣料費、住宅費、交通費、教育費などを得るために労働に励んでいます。

貴重な収入に余裕があるようでしたら、盗難、火災、不時の死亡や障害の発生といった予期せぬ出来事から家族を守るために、保険を購入するべきでしょう。

これらの生活に欠かせない経費を差し引いて、なお余裕があれば、一般的には、将来ためや趣味に投資されるでしょう。

例えば退職後の生活資金、子供の将来の学資、あるいは別荘などです。

そしてさらに資金に余裕がある人々は、その資金運用に関して、積極的にリスクを冒そうとする場合があります。

こういった人々の多くは弁護士や会計士を雇い、ビジネスの失敗や国内経済の下降、

さらには資産を没収される危険性のある政情の不安定などから、蓄積された資産を守るための投資構

造を考えます。

日本、米国、カナダ、そしてヨーロッパの人々にとって、実際の政情不安定の危険性は最小限です。ところが、ベネズエラ、ジンバブエ、パキスタン、マレーシア、アルゼンチンなどの国々の人々にとっては、政府から人権を制限され、「国の社会的幸福」という名目で財産を没収される危険性に直面しているのです。

このような政情不安定から自己資金を守りたい世界中のクライアントの要求に応えるため、世界中の投資商品は、さらに質が高くなっていくでしょう。

これまでは、このような高品質商品は、特定のクライアントの個人的要求に応えるための投資構造を設定することが高価であったため、ごく一部の裕福な資産家しか購入できませんでした。

しかし現在は、自由貿易、インターネット、投資パッケージ商品、投資家の知識の向上などにより、一般的な人々でも、様々な種類の投資商品の情報が容易に得られるようになっています。

これらの投資商品のディストリビューターは、年間成長率 20%、または 30%がプロモーターによって保証され、いつでも資産にアクセスできることなど、過去の事例を説明し、投資家を興奮させるでしょう。

しかし、投資オプションを選択するためには、投資商品の種類とその効率が、長期にわたる全世界の経済成長率と連動していることを理解しなければなりません。

どのように結びついているかを見ることにしましょう。

< 世界経済 >

次のグラフでは、全世界の経済が 15 年間の年平均で約 4%と、非常に健全な数値で成長していることを示しています。

しかし、成長率のトレンドラインは、ゆっくりですが 4.5%に向かっています。

この上昇傾向の第一の理由は、世界中の貿易障壁の減少です。

物品やサービスのより自由な流通、競争の激化、そして労働賃金の安いマーケット、特に中国やインドへのアクセスの容易さなどが、世界中の経済を活気づけています。

【1993年～2008年における全世界の平均GDP成長率】



全世界の平均GDP成長率が約4%であるのに対し、中国とインドはここ数年、約10%の成長を続けてきました。

この両国の将来の成長率は、世界的な需要の減少、そして将来の成長を活気づけるための、安価な労働力を提供し続けるために重要な挑戦が必要なため、2008年のレベルに縮小されると予測されます。

通常、自由市場経済における成長率は、国際市場における当事国の通貨価値、銀行預金の利息、株式市場で取引される企業の株価、不動産などの耐久消費財の価格などを決定する要素となります。

インドと中国の両国はともに、通貨の流通と為替レート、および銀行金利を(政府が)コントロールしており、自由市場での活動には制限があります。

しかし、両国ともに、不動産価格の上昇と株式市場の増大により、利益を得ています。

他にも、この世界的な経済成長の継続により利益を得るのは、金属、石油、食料などの天然資源が豊富な国々です。

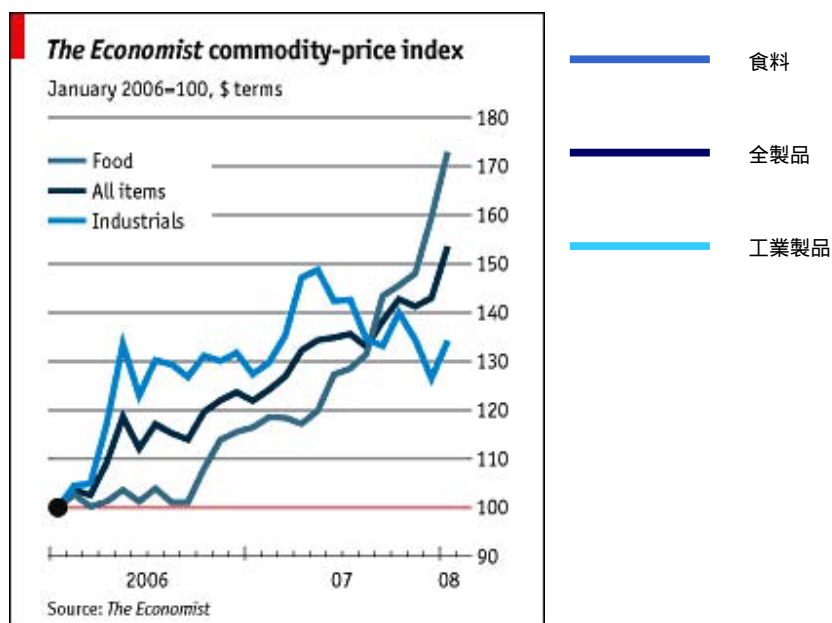
世界経済が成長し、需要が増大すれば、それにともない不足する資源の価格が上昇するからです。

ロシア、カナダ、オーストラリア、ノルウェー、ブラジル。

これらの国はいずれも、石油、鉱物、食料資源が豊富で、成長を続けています。次のグラフは、2006年以降の商品価格指数の上昇を示しています。

【商品価格指数の推移(エコノミスト誌)】

2006年1月 -100, \$term



資料: The Economist

また、これらの国は、通貨価値が相対的に強く、株式指数の上昇は世界的な平均値を上回っており、不動産価格は基盤となる経済基準値と一致して上昇しています。

過去 3 年間のうちに、ブラジル、ロシア、またはカナダの株式市場、あるいは不動産に投資した、先見の明がある世界の投資家は、30%以上の利益を得ました。この上昇傾向は今後も続くものとみられています。

一方、米国の不動産価格の上昇は、実質成長の認識から発生したものではなく、不自然な手段によったため、持続する可能性がありませんでした。

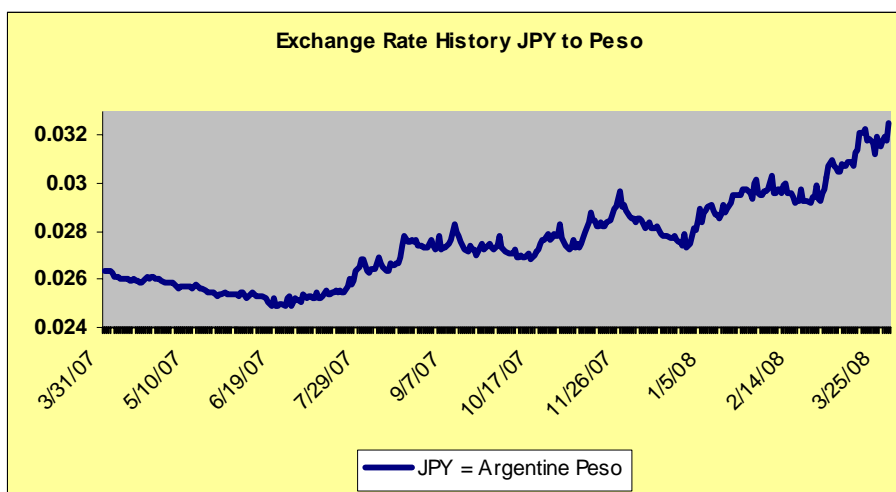
米国の不動産市場とサブプライムの問題については、後ほど詳しくお話しします。

その他の国への投資を考える際、重要な点のひとつは、通貨価値に関するリスクです。最終的に、投資からの利益を自国の通貨で受け取った時に、はじめて利益になったかが分かるのです。

ここでひとつの例として、2007年3月にアルゼンチン政府が発行した国債をご紹介します。
それはアルゼンチン政府が年利15%を保証し、アルゼンチン・ペソで支払われる、というものでした。

この時、ヨーロッパ、米国、カナダの国債の年利はわずか4%から5%でした。
それでは、2007年3月から2008年3月までの、日本円とアルゼンチン・ペソの為替レートの面からも見てみましょう。

【日本円対アルゼンチン・ペソ為替レートの推移】



例えば、この国債に、日本人投資家が100万円を年利15%で投資したとします。
1年後には115万円になると期待します。
ところが、投資額と利息はペソで処理されることになっていたので、それが予想外の結果をもたらしました。

日本円の投資額をペソに直すと：

$1,000,000 \text{ 円} \times 2007 \text{ 年 } 3 \text{ 月 } 31 \text{ 日 の 為 替 レ ー ト } 0.02633 = 26,330 \text{ アルゼンチン・ペソ}$

1年後の結果は $26,330 \text{ ペソ} \times 1.15\% = 30,280 \text{ ペソ}$

これを日本円に直すと：

$30,280 \text{ ペソ} \div 2008 \text{ 年 } 3 \text{ 月 } 30 \text{ 日 の 為 替 レ ー ト } 0.03249 = 931,979 \text{ 円}$

15%の利益の代わりに、約7%の損失となってしまいました。

この例は、国際的な投資を考える方々を躊躇させるために引用したものではありません。
正しい投資オプションを選択するためには、様々な要素を考慮する必要があるという例なのです。
さらに、世界の経済状況や投資効率だけでなく、次のことにも留意しなければなりません。

1. 投資のスケジュール(いつ、投資資金が必要になるか)
2. 投資の流動性(容易に投資資金を換金できるか)
3. 投資におけるリスク
4. 項目3のリスクを冒す価値
5. 該当すれば税金や規制

国際的な投資に関する詳細に進む前に、まず日本における投資オプションについて、
理解していきましょう。